

2014年(平成26年)9月5日(金)

小学校でひまわり油生産

秋田・大館市釈迦内地区

列島最前線



ひまわり油などの製品
を手にする日景さん



ヒマワリを収穫する児童たち

その一つが4年生による「元氣いっぱいひまわり油プロジェクト」。児童が10㍗の畑でヒマワリを育てると、200㍗のビン50本分の上質な油が取れた。教育と同時に経済効果も生んだことから同年の経産省主催「地域の魅力発信アイデアコンテスト小中学校部門」の最優秀賞に輝いた。

この学校の頑張りに触発されたのが住民たちだ。向陽学校創始者の子孫で、当時PTA会長だった日景賢悟さん(45)も整った。事業の柱は地区内の遊休農地などを活用してヒマワリを栽培し、油にして販売すること。収益は児童の修学旅行と融合させた北海道での4泊5日の宿泊体感学習に充てる。

「地域の役に立ちたい」 児童、卒業式でスピーチ

むろん教育効果も高い。ヒマワリ栽培という農業の導入はキャリア教育の充実につながることも、民泊を通じた各種自然体験は生きる力の養成に通じる。全国学力テスト第1位の秋田県の中

児童 育てる喜びや働く苦勞を学ぶ 地区民 経済活性化や地域の連帯実感

秋田県大館市釈迦内地区は小学校を核に「ひまわり油」の生産などに取り組み、まちづくりに成果を上げている。児童はヒマワリを栽培することで生命を育てる喜びや働く苦勞を学び、大人は経済活性化や地域の連帯を実感する。「すべては未来を担う子どもたちのために」を合言葉とする実践活動は数々の受賞歴も持つ。

きっかけは2010年 任じたこと。同校が明治4月、市立釈迦内小に57年創立の「向陽学校」十嵐経校長(61)が赴き、由來することに着目。を仕掛けた。

「見方によっては経済事業を組み込むことに疑問を感じる方もいるかもしれませんが、収益は全部子どもたちに還元します。すべては未来を担う子どもたちのためにというコンセプトがあるからこそ、地域が一丸となれるのです」と実行委員長の日景さんは話す。



たちが「まちづくりの視点でさらに拡大を」と地域との連携事業に発展させた。翌年、地区のまちづくり協議会内にサンフラワープロジェクト実行委員会を設置。住民を始め婦人会や町内会長、企業など地域全体が関わる体制

シャーベット・お茶
商品開発も続々

収益は子どもに還元